

## 脈望館鈔本「楚昭公疎者下船」雜劇訳注稿（後篇）

著者	土屋 育子，?崎 駿士，室 貴明
雑誌名	東北大学文学研究科研究年報
巻	70
ページ	68-39
発行年	2021-03-07
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00130597">http://hdl.handle.net/10097/00130597</a>

## 脈望館鈔本「楚昭公疎者下船」雜劇訳注稿（後篇）

土 屋 育 子・高 崎 駿 士・室 貴 明

### 凡例

- 一、本稿は、脈望館鈔本「楚昭公疎者下船雜劇」（『古本戯曲叢刊四集』（商務印書館一九五八年）所収「脈望館鈔校本古今雜劇」）の訳注である。
- 二、底本では異体字が多く使われているが、閲覧の便を考慮して通行の字体に改めた。  
また、明らかな誤字など校訂すべき字は（ ），補うべき字は《 》で示した。
- 三、ト書きは〔 〕，歌詞の曲牌（メロディ名）は【 】, 歌詞はゴシック体で示す。
- 四、注釈は簡略を旨とするが、必要に応じて典拠や用例を載せる。本作には異本およびその校本が存在するため、訳注作成の参考とした。以下に異本の題名とその校本を記す。

元刊本「大都新編楚昭王疎者下船」

明・臧懋循編『元曲選』所収「楚昭公疎者下船」

なお、参照した主な書を以下に挙げる。

塩谷温訳注『楚昭公』目黒書店 一九三九年

『元曲選』全四冊 中華書局 一九五八年

『元曲選校注』全八冊 河北教育出版社 一九九四年

赤松紀彦ほか『『董解元西廂記諸宮調』研究』汲古書院 一九九八年

赤松紀彦ほか『元刊雜劇の研究』（一）（二）（三）汲古書院 二〇〇七年，二〇一一年，二〇一四年

### 第三折

[龍神領鬼力<sup>1</sup>上云]

---

1 鬼力…鬼神の部下，手下。

長江浩浩顯威靈<sup>2</sup>，風浪孤舟怎敢行。巡綽<sup>3</sup>往来常救護，誰知暗裡有神明<sup>4</sup>。

吾神乃漢洋江<sup>5</sup>龍神是也。掌管着万里長江<sup>6</sup>。有楚昭公<sup>7</sup>弟兄妻子四口兒，過此大江。有漁船一隻，行至江中。明日乃四耗<sup>8</sup>九醜<sup>9</sup>之日，必起大風也。吾神奉上帝勅令，若有下水者，救護至岸。這早晚他敢待<sup>10</sup>來也。

〔訳〕〔龍神が手下を引き連れて登場している〕

長江は浩浩として威靈を顯し，風浪 孤舟 <sup>いか</sup> 怎でか敢えて行かんや。巡綽<sup>みまわり</sup>往来して常に救護す，誰か知らん暗き裡に神明有るを。

私は漢洋江の龍神です。万里の長江を管轄しております。楚の昭公兄弟・妻子の四人が，この大川を通り過ぎます。一艘の漁船で，川の中ほどまでたどり着くでしょう。明日は四耗九醜の日なので，必ず大風が吹きます。私は上帝のご命令を奉じて，もしも川に落ちる者がいれば，岸まで助けます。そろそろ彼らが来るでしょう。

2 威靈…神靈。『楚辭』九歌・国殇「天時墜兮威靈怒，嚴殺尽兮棄原野。」

3 巡綽…「巡遑」とも書く。巡回して警戒すること。無名氏「馮玉蘭」第二折「往来巡綽大江中，拳棹張帆只看風。」清・翟灝『通俗編』「政治」に，明・楊慎『丹鉛錄』を引き「今之場屋有巡綽官……則巡綽字非，当作巡遑。」と指摘する。

4 神明…天地の間の神々のこと。類似表現に，元・喬吉「兩世姻縁」第二折【浪裏来】「秀才呵豈不聞拳頭三尺有神明。」や，明・楊景賢『西遊記雑劇』第三齣「念仏修行去誦經，誰知處處有神明。」などもある。

5 漢洋江…長江の別称。「漢陽江」とも書く。元・尚仲賢「柳毅伝書」第二折「忙將水卒点，不索告龍王，管取涇河岸，翻作漢洋江。」

6 万里長江…古い用例としては、『世説新語』任誕「周曰，吾若万里長江，何能不千里一曲。」や『晋書』孫綽伝「中宗龍飛，非惟信順協於天人而已。實頼万里長江画而守之耳。」などがある。

7 楚昭公…戦国時代楚の君主，昭王のこと。在位 前 515-前 489。脈望館鈔本は宮廷内で上演された脚本，つまり内府本に基づいているが，内府での上演では「王」は「公」に書き換えられたため，本劇でも「昭公」となっている。

8 四耗…算命で四つの事柄（婚姻・出征・倉庫を開ける・金の貸し借り）を忌むべき日。清代の書だが，李光地『御定星曆考原』巻四に，「総聖曆曰，四耗者，謂四時休干臨分至之辰也。其日忌会親姻，出師，開倉庫，施債負。」とある。

9 九醜…『呉越春秋』「夫差内伝」に，伍子胥が呉王夫差の斉国征伐を諫めるくだりに次のようにある。「子胥曰，今年七月辛亥平旦，大王以首事。辛，歳位也。亥，陰前之辰也。合壬子，歳前合也。利以行武，武決勝矣。然徳在合，斗撃丑。丑，辛之本也，大吉，為白虎而臨。辛，功曹，為太常所臨。亥，大吉，得辛為九醜，又与白虎並重。有人若以此首事，前雖小勝，後必大敗。天地行殃，禍不久矣。呉王不聽遂。九月使太宰嚭伐斉。」

10 敢待…「～しようとする」，「まもなく～しそうだ」。

[浄<sup>11</sup> 梢公<sup>12</sup> 上, 嘲歌<sup>13</sup> 科]

漁人頂笠又披蓑, 得蹉跎<sup>14</sup> 処且蹉跎。一杆輕鉤浮游動, 閑中無事唱漁歌。唱漁歌, 眼觀清水玩風波。黃蘆隨岸長, 紅蓼遍灘多。江辺則老漢, 屋中則有家婆。家婆道, 大哥, 大哥, 鎮日常有甚生活。吃的三盃村糯酒, 緑陰中要結絲蘿。擺過船梢, 斜橫了个舵。可打破則个鍋<sup>15</sup>。把个家婆来叫吖吖, 吵鬧得似風魔, 阿外外。

[梢公(公)] 自家是个梢公。每日在這江辺捕漁為生。今日無甚事, 撐着這船, 慢慢的打魚。看有什麼人来。

[訳] [浄の船頭が登場, 戯れて歌う]

漁師は笠をかぶりまた蓑を羽織り, むなしく時が流れるのならばしばし時が流れるのにかまかず。一本の釣竿の針が浮かんで動き, のどかに何事もなく漁り歌をうたう。漁り歌を歌い, 目に見えるは清らかな川の水が風波に戯れ, 黄色い蘆が岸に沿って伸び, 赤い蓼が水辺一面に広がるさま。川辺においほれ, 小屋の中に女房がいる。女房がいうには, おまえさん, おまえさん, 日がな一日いつもどんな暮らしをするかって。どぶろく三杯飲んで, 緑の木陰でいいことをする。船を揺らして, 舵を斜めにし, とことんまで追い詰めてやる。女房をぎゃあぎゃあ喚かせ, 狂ったようにわあわあ騒がせる。

[船頭がいう] 私は船頭です。毎日この川辺で魚を取ることを生業としております。今日はとくに何もなし, この舟を操って, ゆるりと魚を捕ろう。誰が来るか見てみましょう。

[正末同半旋, 旦兒, 俵兒慌上] [正末云] 兄弟也, 走走走。

【中呂】【粉蝶兒】則听的兵起東吳。可撲撲胆驚心懼。何処也志昂昂太宰包(子)胥。我這里急慌, 忙劫忙<sup>16</sup>, 不成活路。若得安居。望西秦遠来相助。

11 浄…役柄の一つ。道化役, 敵役を担当する。

12 梢公…船頭。

13 嘲歌…鼻歌を歌うこと。

14 蹉跎…つまずくこと。転じて, 思い通りにいかず無駄に時間が過ぎること。

15 打破則个鍋…原義は「鍋を割ってみる」だが, 類似表現に「打破沙鍋鑿到底」(元・呉昌齡「東坡夢」第四折, 元・王実甫「破窑記」等)に見える。「打破砂鍋問到底」とも)があり, 「鑿」(裂ける, 割れる)が「問」(問う, たずねる)と同音なので, 「問到底」=「とことんまで問い詰める」という意味を表す。

16 脈望館鈔本朱筆は, 「急慌々」の「々」, 「忙劫忙」の「劫」をそれぞれ消し, 「我這里, 急慌忙忙」と

〔訳〕〔正末が芑旋，女役，子役とともに慌ただしく登場〕〔正末がいう〕弟よ，逃げろ逃げろ。

【中呂】【粉蝶兒】ただ東呉から軍勢を差し向けてきたと聞いただけで，胸がドキドキして驚き恐れる。意気軒昂な太宰嚭と伍子胥はどこにいるのか。私のほうは慌てふためき，おろおろし，逃げる道も見つからない。もしも生き長らえることができたなら，西秦がはるばる助けてくれるのを待とう。

〔旦兒云〕公子，後面呉兵追趕の至近也。你休顧俺子母每，你和小叔叔則顧您的性命咱。

【醉春風】則俺這妻子意関心，弟兄手共足<sup>17</sup>。〔芑旋云〕俺怎生撇了嫂嫂，侄兒也。〔唱〕俺一家四口兒盼程途。俺端的好苦苦。幾時能勾揺展旌旗，還歸故里，撫安黎庶。

〔訳〕〔女役がいう〕公子さま，後ろから呉の兵が追撃してきております。われら母子のことはお気遣いなく，あなたと弟君はただお二人の命をお考えください。

【醉春風】ただわが妻と子は思いが心につながり，兄弟は手と足とがともにあるのと同じ。〔芑旋がいう〕私がどうして兄嫁さまと甥をお見捨てしましょうか。〔うたう〕わが一家四人は行く手を望む。われらまことに苦しいこと。いつの日か旗を広げて揺らし，故郷に帰り，民を安んじることができるだろうか。

〔芑旋云〕哥哥，我当初曾勸你来，為一口劍打什麼不緊。惹起這場禍来。想子胥与俺包胥<sup>18</sup>是故友。若借的秦兵来，見了子胥，必然重安楚国也。

【迎仙客】一个報冤讐趲了子胥。一个打賭賽去了包胥。何処也扶国濟危重立楚。慌促促的硬逃生，急煎煎的甘受苦。〔衆発喊科〕〔唱〕腦背後炒鬧起軍卒。〔芑旋云〕哥哥，兀那後辺軍馬追趕の至近也。前面又有大江，江水泛漲，又無渡船，怎生是好。〔唱〕眼前面翻滾滾野水無人渡<sup>19</sup>。

〔訳〕〔芑旋がいう〕兄さん，私はあの時お諫めました，ひとふりの劍が何の大したこ

する。

17 手足…ここでは兄弟を喩える。前漢・焦贛『易林』益之蒙「飲酒醉酣，跳起争鬪，手足紛拏，伯傷仲僵。」

18 申包胥…前篇第一折に既出。楚の大夫で，楚が呉に攻撃されたとき，救援を求めに秦に赴き，援軍の派遣を秦王に約束させた。『呉越春秋』闔閭内伝，『史記』伍子胥列伝。

19 野水無人渡…宋・寇準「春日登樓懷歸」詩に「野水無人渡，孤舟尽日横。」句がある。また，雜劇の用例には，元・李寿卿「伍員吹簫」第二折【烏夜啼】「從今後半瓶濁酒有誰沽，拋下這一江野水無人渡。」がある。

とがありましょう、と。このようなわざわいを引き起こしました。思えば伍子胥とわが申包胥は旧友です。もし（わが申包胥が）秦の軍隊を借りてきて、伍子胥に相まみえたら、必ずやふたたび楚国を安んじましょう。

【迎仙客】一人は復讐を遂げた伍子胥、一人は賭けをして出立した申包胥。どこに国の危機を救い再び楚国を立てようとする者がいるのか。慌ただしくなんとか逃げ、じりじりと苦しみも甘んじて受ける。[人々が叫ぶしぐさ][うたう]背後で兵士が大声を上げ始めた。[芊旋がいう]兄さん、あの後ろから軍隊が間近に追ってきました。前には長江があります。川の水はみなぎって、また渡し船也没有。どうしたらよいでしょう。[うたう]眼前に滔々と流れる野の川には渡し人もいない。

[芊旋云] 哥哥，兀的江岸边有一隻打魚船，我是（試）喚他一声咱。兀那梢公，你将船撑将過來，我有話对你說。[梢公云] 来也，来也。喚梢公有何事。[芊旋云] 兀那梢公，将你這船渡俺這四口兒過去，到那岸边，還你船錢。[梢公云] 客官，船小渡不的。

[訳][芊旋がいう] 兄さん、あの河岸に魚取りの船があります。私が試しに彼に一声掛けてみましょう。そこな船頭、舟をこっちへ回してくれ。話があるんだが。[船頭がいう] 行きますよ、行きますよ。船頭を呼ぶのは何用で。[芊旋がいう] そこな船頭、おまえのこの舟で我ら四人を渡してくれ。あちらの岸に着いたら、船賃を払ってやろう。[船頭がいう] お客人、舟が小さくて渡れません。

【紅繡鞋】不得已你央及<sup>20</sup> 漁父。[梢公云] 我又不和你親，我不渡你。[唱] 雖然不是親族。我与你近隣臨莊<sup>21</sup> 一鄉閭。[梢公云] 什麼鄉閭，我不認的您，船小載不起這幾個人。[唱] 你道是船兒小不堪裝載，則要你大肚量救俺家屬。則願的過長江無間阻。

[訳]【紅繡鞋】やむを得ずお前は漁師に頼み込む。[船頭がいう] わしはあんたと親しくない、わしはあんたを渡さないよ。[うたう] 親族ではなくても、私とあなたはご近所で同郷ですよ。[船頭がいう] 何の同郷だ。わしはあなたを知らない、舟が小さくてこの人数は載せられないのじゃ。[うたう] おぬしが言うのは舟が小さくて載せることができない、ただ求めるのは大きな度量でわが家族を救うことだけ、ただお願いするの

20 央及…頼む。お願いする。元・関漢卿「救風塵」第一折「当初姨姨引章要嫁我来，如今却要嫁周舍，我央及你勸他一勸。」

21 近隣臨莊…「臨臨近莊」とも。隣近所。元・鄭廷玉「看錢奴」第三折「你和俺須同村共境近隣莊。」

は早く長江を渡して行く手を阻むことの無いようにだけ。

[芈旋云] 兀那梢公，你認不的俺，我哥哥是楚昭公。被子胥追趕至近也。你若肯渡將俺過去，久後平定了楚国，那其間將你重賞封官<sup>22</sup>，不強似你在此捕魚。你是（試）尋思咱。[梢公云] 我和你説，一者我是您幾個的護身符，二者我是你幾個的掌命司。上船，上船。[芈旋云] 既然這等，哥哥，請上船。[衆上船科] [梢公云] 我説不載不載，您強扒上船來。偌遠的江面，幾時到的那岸邊也。

[訳] [芈旋がいう] そんな船頭，おまえはわれらを見知らぬが，わが兄は楚の昭公であるぞ。伍子胥に追われてこの辺りに来たのだ。おまえがわれらを渡すのを承知してくれれば，将来楚国を平定したら，そのときにはおまえに厚く褒美を与え官に封じるから，ここで魚を取るよりずっといいぞ。よくよく考えてみよ。[船頭がいう] 言っときますがね，一つにはわしはあんたがたの身を守るお札，二つにはわしはあんたがたの運命を預かる神さまですよ。乗った，乗った。[芈旋がいう] そうなれば，兄さん，舟にお乗りください。[人々舟に乗るしぐさ] [船頭がいう] 載らない載らないと言ったのに，あんたがたは無理矢理船によじ登ってきた。こんなに大きな川では，いつあちら側に着くのやら。

【石榴花】見雲濤風浪接天隅<sup>23</sup>。這的是海闊洞庭湖<sup>24</sup>。[梢公云] 風浪甚大，您人衆苦也，苦也。[唱] 這厮可使大驚小怪老村夫。那裡便叫苦。諛的我魄散魂無。[梢公云] 大浪接天，怎生是好。船兒又小，滄上水來了也。不着親的，請箇下水去。[衆做悲科] [唱] 他道是不着親疎慢的当身故。俺四口兒那一个何疎。則俺這一家老小牽腸肚。[正末云] 梢公，你不道來。[梢公云] 我説什麼來。[唱] 則憑你个老叟是護身符。[芈旋云] 哥哥，這風浪越大了也。船隻較小，不堪重載，似此怎了也。

[訳] 【石榴花】見れば沸き立つ雲と風浪が天の果てで接する。これぞまさしく海の如く広き洞庭湖じゃ。[船頭がいう] 風と波がひどく激しい，あんたがた辛かろう，辛かろう。

22 重賞封官…褒美を重くして官に任命する。定型表現。雜劇では，元・尚仲賢「單鞭奪槊」楔子「[正末云] 敬徳，你若肯投降呵，我奏知聖人，將你重賞封官。」，元・鄭光祖「鍾離春智勇定齊」第一折「[齊公子云] 大夫，陰陽有准，若応此夢，必然重賞封官也。」などに見える。

23 雲濤風浪接天隅…唐・胡曾『詠史詩』卷上「五湖」「東上高山望五湖，雲濤煙浪起天隅。不知范蠡乘舟後，更有功臣繼踵無。」

24 洞庭湖…湖南省北東部にある淡水湖。



〔うたう〕こやつは小さな事でわめきたてる田舎の老いぼれ。どうしてすぐ苦しいというのか。恐ろしさに私は魂も魄も飛び散って消えてしまう。〔船頭がいう〕大波が天に接するほど揚がっている、どうしたらよいものか。船も小さいので、水が流れこんで来た。近しくない人、どうか水に落ちてください。〔人々悲しむしぐさ〕〔うたう〕彼は近しくなく疎遠な者は死ぬと言う。我ら家族四人だれが疎遠なことがあろうか。この一家の老いも若きもはらわたを割かれる思いにする。〔正末がいう〕船頭よ、おぬし言うてくれるな。〔船頭がいう〕わしが何か言いましたか。〔うたう〕ただお守り代わりのおまえを頼りとするだけ。〔半旋がいう〕兄さん、風と波がますます激しくなってきました。船はかなり小さく、重さに耐えられません。かくなる上はいかがいたしましょう。

【闘鶴鶉】兄弟是同気連枝<sup>25</sup>、妻子是多情伴侶。〔半旋云〕哥哥，則顧你的前程，休顧您兄弟也。〔唱〕眼睜睜弟覷着恩兄，〔旦俵做悲科〕〔唱〕悲切切子随着育母。好教我穰穰劳<sup>26</sup>心不舒。〔梢公云〕不着一个下水呵，一回兒連船都罷了。〔唱〕他道是霎時間命已卒。〔半旋云〕哥哥，好覷当嫂嫂侄兒，您兄弟拜別了。哥哥，我下水去也。〔正末云〕兄弟，不爭你下水呵，〔唱〕着誰人買馬招軍，誰与俺興邦定楚。〔梢公云〕風大歪了船，滄上水来了。快着一个下水去。

〔訳〕【闘鶴鶉】兄弟は気質を同じくする連枝，妻と子は情愛の深いつれあい。〔半旋がいう〕兄さん，ただあなたの前途だけをお考えください，私のことはお考えになりませぬよう。〔正末がいう〕目前に弟は兄を見ている。〔女役と子役が悲しむしぐさ〕〔うたう〕悲しげに子は母に従っている。容易に私の思いを乱し心は落ち着かない。〔船頭がいう〕一人を水に落とさなければ，まもなく船もおだぶつですぜ。〔うたう〕彼はもうすぐ一巻の終わりだと言う。〔半旋がいう〕兄さん，兄嫁さんと甥御の面倒をよく見てください。私はおいとまします。兄さん，私が水に入ります。〔正末がいう〕弟よ，お前が水に身を投げてしまったら，〔うたう〕誰に馬を買い軍勢を集めさせたらよいのか，誰が私のために国を興し楚を安定させるのか。〔船頭がいう〕激しい風に船が傾いて，水が入ってきた。早く一人を水に落としてくれ。

25 同気連枝…「連枝同気」ともいう。同じ両親から生まれたきょうだいをいう。『呂氏春秋』精通「故父母之於子也，子之於父母也，一体而兩分，同氣而異息。」

26 穰穰勞勞…心配と焦りで心が千々に乱れることを形容する。元・趙明道【闘鶴鶉】「題情」套曲「燕燕鶯鶯，花花草草。穰穰勞勞，多多少少……困騰騰頭昏腦悶，急煎煎意穰心勞。」



【普天樂】掩掩澆澆画船兒歪，囊囊突突梢公絮。[梢公云] 風大歪了船，滄上水來了。快着一個下水去。[唱] 我則見他無休的催促。待不得須臾。[旦兒悲科，云] 兒也，則被你痛殺我也。[唱] 兒悲啼為母離，娘痛哭拋兒去。哎你個掌命司梢公你便休催促。百忙裡便割不斷子母兒他那里腸肚。割捨了我賢妻的貴體，顧不的我親兒的性命。[芾旋云] 哥哥，您兄弟下水去也。[唱] 那去我緊揪住俺這兄弟的衣服。

[訳] 【普天樂】川の水が被り飛び散って画舫は傾き，くどくどと船頭は煩わしい。[船頭がいう] 激しい風に船が傾いて，水が入ってきた。早く一人水に落としてくれ。[うたう] ただ見れば彼はしきりと催促し，わずかな時も待ってくれぬ。[女役が悲しむしぐさ，いう] 息子や，お前のことで私は悲しくてたまらぬ。[うたう] 子どもは母親との別れに悲しみ泣き，母親は子を棄て去ることに痛哭する。ああお前という命を司る役人の船頭よ催促するな。慌ただしく彼ら母子の思いを断ち切れようか。わが賢妻の尊い身体を見捨てたら，わが実の子の命を顧みることはできぬ。[芾旋がいう] 兄さん，私が水に飛び込みます。[うたう] どこへ行くかとわたしはわが弟の服をばしつかとつかむ。

[芾旋云] 哥哥，梢公道疎者下船。您兄弟想来，嫂嫂，侄兒与哥哥正是着親的。惟您兄弟疎慢不親，理当下水也。[正末扯芾旋科，云] 兄弟也，咱两个須親，還有不親的哩。[旦兒科] 孩兒也，眼見的我顧不的你也。住住住，昭公也。這兄与弟皆是同氣連枝。妾身乃別姓不親，理当下水也。[正末云] 你言的是也。

[訳] [芾旋がいう] 兄さん，船頭が近しくない者は船を下りろと言っています。わたくしが思うに，兄嫁と甥御は兄さんとまさしく近い者です。ただわたくしは疎遠で近しくありませんから，水に飛び込むべきです。[正末が芾旋を引き留めるしぐさ，いう] 弟よ，われら二人は近いはずだ，ほかに近しくない者がいる。[女役がこなし] 息子や，どうやら私はおまえの世話をしやれないようです。お待ちください，昭公さま。この兄と弟は同じ両親から生まれたきょうだい。わたくしは別姓で近しくありませんから，道理として水に飛び込むべきです。[正末がいう] おまえのいうとおりだ。

【上小樓】我着你名標萬古。那裡也相隨百步<sup>27</sup>。你待要捨命投江，替了兒夫。救了親族。

27 相隨百步…後ろに「尚有徘徊」を伴い，百歩あとを付いてきても，なおも気にかかることがあつてぐずぐずするの意。用例としては，無名氏「神奴兒」第一折【柳葉兒】「在那裏別尋一個同胞兄弟，媳婦兒是牆上泥皮，可不說相隨百歩尚有徘徊意。」，元・閔漢卿「拜月亭」（元刊本）第二折【哭皇天】「常

兄弟は一父母。你比他兩姓疎。從新革故<sup>28</sup>。[旦児科] 昭公，我囑付你咱。你好生看顧我這孩兒也。我下水去也。

父母生身養育恩，連枝同氣最相親。夫牽心内情難捨，妻乃壁間若土塵。

兄弟一双為手足，姻縁百歳是他人。好看懷抱親生子，我一命沈淪赴水津。[下]  
[龍神云] 鬼力，將夫人救上岸去者。[鬼力云] 理会的。[芑旋云] 可惜了嫂嫂也。[唱]  
久以後史書中又添個節婦。

[訳] 【上小楼】わしはお前の名を永遠に語り継ごう。どうしてまたぐずぐずとためらっているのだ。お前が命を捨てて川に身を投げるのは、夫の身替わりとなり、弟を救うことになるのだ。兄弟は両親を同じくし、お前は弟と比べれば別の姓で疎遠だ。古いものを改め新しいものを立てるのだ。[旦児がこなし] 昭公さま、私はあなたにお願いします。この子の面倒をよく見てやってください。私は水に飛び込みます。

父母には生身養育の恩あるも、連枝同気は最も相親し。夫は心内に牽かれ情捨て難く、妻は壁間の土塵のごとし。

兄弟は一双 手足為るも、姻縁は百歳是れ他人。好く看よ懷に抱きし親生の子、我が一命 沈淪して水津に赴く。[退場]

[龍神がいう] おい、奥方を助けて岸に上げろ。[鬼力がいう] かしこまりました。[芑旋がいう] かわいそうな兄嫁さま。[うたう] 久しきのちに史書にまた節婦が加えられるのだ。

[梢公云] 船輕了也。風浪又大了。再請一个下船。[芑旋云] 哥哥，風浪越大了也。梢公道，梢（疎）者下船。您兄弟辞別了。哥哥，下水去也。[正末云] 兄弟也，嚙两个須親，還有不親的哩。[俣児云] 爹爹，眼見的不親的是您孩兒也。

[訳] [船頭がいう] 船が軽くなった。風と波がまた強くなってきた。もう一人船から下りてくれ。[芑旋がいう] 兄さん、風と波がますます激しくなってきました。船頭が言っています。疎遠な者は船を下りろと。私はお別れします。兄さん、水に飛び込みます。[正末がいう] 弟よ、我ら二人は当然近いはず、まだ近しくない者がいるぞ。[子役がいう]

言道相逐百歩，尚有徘徊。」がある。

- 28 革故鼎新…古いものを取り除き、新しいものを取り入れる。『周易』雜卦「大有衆也，同人親也。革，去故也，鼎，取新也。小過過也，中孚信也。」白話の用例では、無名氏「連環計」第四折【鴈兒落】前のせりふ「[蔡邕云] 太師，此乃是鼎新革故，欲換袞龍袍耳。」がある。

父さん、どうやら近しくない者はあなたの子です。

【幺篇】児也咱两个是親子父。〔芈旋云〕哥哥，留着姪兒，休絶了俺楚家後代祭祀。放了手，您兄弟不親，情願下水去。〔唱〕兄弟也我和你是一父母。〔徠兒云〕爹爹，自古道，順父母言情，呼為大孝<sup>29</sup>。你好看覷叔叔，辭別了父親，我下水去也。〔唱〕児也你叔父便和我着疼，我和他関親，你比他疎。〔徠兒下水科，云〕我下水去也。

母親一命喪黄泉，不由您兒淚漣漣。今朝下水投江去，和母親幽冥路上受熬煎。〔下〕〔龍神云〕鬼力，与我救出来者。〔鬼力云〕理会的。〔唱〕児也你去水府。往地獄。児尋娘去。〔芈旋云〕丟了侄兒，不絶戸了，哥哥。〔唱〕兄弟也寧可着我無児怎肯教你絶戸。〔訳〕【幺篇】息子やわれら二人は実の父子，〔芈旋がいう〕兄さん，甥御は留めて，わが楚家の子孫と祭祀を途絶えさせないでください。手を放してくださったら，私は近しくありませんから，水に飛び込みたいと思います。〔うたう〕弟よわしはお前と父母を同じくしている。〔子役がいう〕父さん，諺にも，父母の心に順う，（これを）大孝と呼ぶ，と言います。あなたはよくおじさんの面倒をみてください，父さんとお別れして，水に飛び込みましょう。〔うたう〕我が子よお前のおじさんは私を思いやってくれる，わしは彼と親族の間柄で，お前は彼より疎遠なのだ。〔子役が水に飛び込むしぐさ，いう〕私は水に飛び込みます。

母親は一命 黄泉に喪い，由<sup>おも</sup>わ<sup>あなたのこ</sup>ず<sup>はらはら</sup>您<sup>くるしみ</sup>兒は涙漣漣。今朝水に下り江に<sup>かわ</sup>投げ去り，母親と幽冥の路上にて熬煎を受けん。〔退場〕

〔龍神がいう〕鬼卒よ，助けてこい。〔鬼卒がいう〕わかりました。〔うたう〕我が子よ，お前は水中の役所に行き，地獄に行き，よくよく母さんを探すのだ。〔芈旋がいう〕甥御を失ったら，家門が途絶えることになりませんか，兄さん。〔うたう〕弟よ私が子を失ってもお前に家門を途絶えさせられようか。

〔芈旋云〕可惜嫂嫂，侄兒下水去了。風浪寧息了。小舟纔得安穩也。

29 順父母言情，呼為大孝…ことわざ。『孟子』万章上に「人少，則慕父母。知好色，則慕少艾。有妻子，則慕妻子。仕則慕君，不得於君則熱中。大孝終身慕父母。五十而慕者，予於大舜見之矣。」とあり，また，『礼記』祭義に「曾子曰，孝有三。大孝尊親，其次弗辱，其下能養。」などとある。白話での用例として，次のものがある。元・石君宝「秋胡戲妻」第二折【倘秀才】後のせりふ「〔搥旦云〕孩兒也，可不道順父母言，呼為大孝。你嫁了他也罷。」，無名氏「甌江亭」第三折【粉蝶兒】前のせりふ「順父母言情，呼為大孝，須索走一遭去。」

【満庭芳】哀哉子母。古今希有，前後俱無。恩親孝子賢達婦。祭了群魚。児也你今日捨性命投江伴母。妻也你可便表真誠出嫁從夫。難相顧。這的是皇天喪楚。您今日隨水底慢嗟吁。

〔訳〕〔芊旋がいう〕かわいそうに兄嫁さま，甥御は水に飛び込んだ。風と波が静かになった。小船はやっとおちついた。

【満庭芳】哀れなるかな母と子。昔も今も滅多に無く，前にも後にも無い。恩情の孝子と賢き妻，群れなす魚に供えられた。我が子やお前は命をなげうち川に飛び込み母の後を追った。妻よお前はまことの心を表して嫁にきて夫に従ってきたが，世話をすることが難しくなった。これぞまさしく皇天が楚を滅ぼそうとするのである。おまえたちは今日水底に従いむなく嘆くのだ。

〔梢公云〕到岸辺了，攬下脚踏板，二位公子請上岸。〔做上岸科〕〔芊旋云〕多謝了梢公。此恩異日，必当重報也。〔梢公云〕二位公子，慢慢的去。您若回来時，我打一隻大海船等你。〔下〕

〔訳〕〔船頭がいう〕岸辺についたから，渡し板を放り投げる。お二人の公子様どうぞ岸にお上りください。〔岸に上がるしぐさ〕〔芊旋がいう〕船頭に感謝するぞ。この恩は他日，必ず重く報いようぞ。〔船頭がいう〕お二人の公子さま，お気を付けて。あなたがたが戻ってきたら，私は大きな海船を仕立てて待っていよう。〔退場〕

〔正末云〕謝天地上的岸来。兄弟也，這兩条路，你往那一条路去。〔芊旋云〕哥哥，嫂嫂，侄兒都無了也。則有嚙弟兄二人，可怎生着您兄弟另去。不知哥哥主何意也。〔正末云〕兄弟，你那裡知道。

【耍孩兒】我怕不待要相隨相從相將去。〔芊旋云〕可是為何。〔唱〕我則怕逢虎將無人祭祖。前山掩映怕埋伏。行行間禱告青虛。小路行怕撞見孫都統<sup>30</sup>，大路裡走恐逢着伍子胥。無拔濟誰相助。俺弟兄每時乖在咫尺，運拙在須臾。

〔訳〕岸に着いたことを天地に感謝いたします。弟よ，この二本の道，お前はそちらの道を行け。〔芊旋がいう〕兄さん，兄嫁さんと甥御はみないなくなりました。ただわれら兄弟ふたりだけ，どうして私を別に行かせるのですか。兄さんはどんな心づもりです

30 孫都統…前篇第一折に登場した，孫武のこと。「都統」は，前秦苻堅が東晋を攻撃する際に置いた軍を統率する武官。遼朝，金朝にも「都統」の官があった。

か。[正末がいう] 弟よ，おまえがどうしてわかるだろうか。

【耍孩児】私は相したがいともに行こうとは思わぬ。[芊旋がいう] いったいなぜですか。

[うたう] 私はただ虎のような勇猛な将軍に出くわして祖先を祭る者が誰も居なくなるのが気がかりなのだ。前の山に見え隠れするのを見れば伏兵がいるかと気に掛かり，進む間に天に祈る。裏道では孫都統に出くわすのが気がかり，街道では伍子胥に会うのを恐れる。救いも無く助ける者も無い。われら兄弟はわずかの間に時運に見放され，またたく間に運が悪くなる。

[芊旋云] 既然這等，您兄弟則往這小路上去，辭別了哥哥，便索長行也。哥哥，受您兄弟兩拜。哥哥穩登前路，兄弟今日離別，幾時再能勾相會也。

【二煞】兄弟也嗒相逢時有限期，離別了無限苦。[正末走科][芊旋喚科，云] 哥哥，且住者。您兄弟再送哥哥幾步咱。[唱] 兩下裡欲去也回頭覷。好着我悲切切痛殺殺心上似鋼刀剗，倒不如捨了命低頭劍下誅。兄弟也哭一声行一步。俺兄弟情氣吁成雲霧<sup>31</sup>。他子母恨淚洒滿江湖。

[訳][芊旋がいう] ということなら，私はただこの裏道を行きます。兄さんと別れを告げて，長旅に出ます。兄さん，私の二回の拝礼を受けてください。兄さんが穏やかに前途を進むことです。私が今日別れたら，いつまたお会いできるでしょう。

【二煞】弟よ我らが会う時間には限りがあり，別れれば無限に苦しむことになる。[正末が逃げるしぐさ][芊旋が呼ぶしぐさ，いう] 兄さん，ちょっと待ってください。私がいちもう少し兄さんをお見送りしましょう。[うたう] 双方立ち去ろうとしてまた振り返って見る。まったく悲痛な思いが胸に迫り心は鋼の刀で切り刻まれるよう，かえって命を捨てて頭を低くして剣のもとに殺されるほうがまし。弟は一歩行くごとに泣き声を上げる。わが兄弟のなさけは嘆息すれば雲霧となり，彼ら母子の恨みの涙は江湖に降りそそぎ満ちる。

[芊旋云] 哥哥，但若打听的申包胥借的兵来呵，楚国必然重安也。

【尾声】俺如今借軍兵登路途。立家邦興率土。嘆人生有損益多榮辱。遥望那投秦国包胥定復楚。[下][芊旋云] 哥哥去了也。我往這小路兒上去也。

31 情氣吁成雲霧…悲しみの情が雲霧となるという類似表現として，魏・曹植「九詠」「来無見兮進無聞，泣下雨兮嘆成雲」等がある。

則為這湛盧宝剑燦光寒,惹起干戈非等閑。兄弟妻子皆失散,哥也別時容易見時難。[下]  
 [訳][葦旋がいう] 兄さん, もしも申包胥が借りた軍勢がやってきたことを聞いたら,  
 楚国はきっと再び安んじられるだろう。

【尾声】 我らただ今軍勢を借りて出発し, 家と国を立て領地を興す。嘆かわしきは人生  
 には損すること得すること栄えること辱められることが多いこと。遥かに望むのはかの  
 秦国に投じた申包胥が必ずや楚を復活させてくれること。[退場][葦旋がいう] 兄さん  
 は行ってしまった。私はこの小道を行くでしょう。

ただこの湛盧宝剑の燦光寒きがため, <sup>たたかい</sup>干戈を惹き起こせしは<sup>ただこと</sup>等閑にあらず。兄弟妻  
 子皆な失散し, <sup>あに</sup>哥よ別れる時は<sup>たやす</sup>容易きも<sup>あ</sup>見う時は難し。[退場]

[龍神云] 他弟兄每去了也。救了賢婦孝子, 吾神不敢久停久住, 回上帝話走一遭去。

義夫節婦非等閑, 弟敬兄愛有相連。父慈子孝天性理, 一家四口保平安。[同下]  
 [訳][龍神言う] 彼ら兄弟は立ち去った。賢婦孝子を救ったら, わしは長居せず, 上帝  
 に報告に行こう。

義夫と節妻は<sup>ただこと</sup>等閑にあらず, 弟が<sup>つながり</sup>敬い兄が<sup>も</sup>愛しむは相連を有つがため。父が慈しみ  
 子が孝なるは天性<sup>ことわり</sup>の理, 一家四口は<sup>にん</sup>平安を保つ。[ともに退場]

[旦兒上云] 妾身乃楚公子之妻。謝天地可憐。不知怎生到這岸上, 可着我那裡去的是。[俣  
 兒上云] 兀的不是我姝姝。我叫他一声。姝姝。[旦兒云] 這不是孩兒麼。你爹爹在於何處。  
 那你怎生到的這裡來。[俣兒云] 自從姝姝下水, 風浪越大了。那梢公道, 「不親的再着一  
 个下水。」我爹爹看着我道, 「您叔叔親, 你不親。你当下水。」您兒跳在水中, 不知怎生  
 到的這岸上。[旦兒云] 昭公, 你好下的也。当初是你自家不是了也。為一口劍, 打什麼  
 不緊, 惹起這場事來。我領着孩兒, 不問那裡尋將去也。

湛盧宝剑結冤讐, 吳楚交兵通郢州。無奈孤身当受窘, 夫婦今朝一旦休。[同下]  
 [訳][女役が登場していう] 私は楚の公子の妻です。天地が憐れみをかけてくれたこと  
 に感謝します。どうやってこの岸にたどり着いたかわかりませんし, どこへ行けば良い  
 のでしょう。[子役が登場していう] なんとまあわたしの母さんではありませんか。声  
 を掛けてみましょう。母さん。[女役がいう] これは我が子ではないか。お前の父さん  
 はどこにいるのか。じゃあお前はどのようにしてここにやってきたのですか。[子役がいう]  
 母さんが水に飛び込んでから, 風と浪はますます激しくなりました。あの船頭が「親し



くない者をもう一人水に飛び込ませろ。」と言うので、私の父さんは私を見て「お前の叔父さんは親しい、お前は親しくない。お前が飛び込むべきだ。」と言いました。私は水中に飛び込みましたが、どうやってこの岸にたどり着いたのかわかりません。[女役がいう] 昭公よ、あなたはまったくむごいことをする。最初にあなた自身が間違いを犯したのです。一ふりの剣など大したことはないのに、こんなとんでもないことを引き起こしました。私は子どもを連れ、どこであろうと訪ねて行きましょう。

湛盧宝剣は冤讐<sup>かたきのえにし</sup>を結び、呉と楚は兵を交えて郢州に通ず。無奈<sup>いかん</sup>せん孤身<sup>ひとりみ</sup>は当に 簪<sup>まさ</sup> くるしみを受くべく、夫婦は今朝にて一旦に休す。[ともに退場]

#### 第四折

[秦昭公<sup>32</sup> 領卒子上云]

八水<sup>33</sup> 通流分上国<sup>34</sup>，三門似錦樂蒸民<sup>35</sup>。春秋繼世尊嬴氏，赳赳雄威号大秦<sup>36</sup>。

某乃秦昭公是也。建国於咸陽。昔年我父秦穆公因与楚結為親邦<sup>37</sup>。有呉楚二国為一口劍，惹起刀兵，今有楚国大夫申包胥前来借兵求救，某堅意不允。不想包胥在馭亭中，依於亭牆而哭，七昼夜不絶，將郵亭哭倒<sup>38</sup>。此人乃真烈士也，我今要借与他兵，未曾与百里奚<sup>39</sup>商議。令人，与我喚將百里奚来者。[卒子云] 理会的。百里奚安在。

[訳] [秦の昭公が兵士を率いて登場するという]

八水 通流し上国を分かち，三門 錦に似て蒸民を楽しましむ。春秋は世を継ぎ嬴氏

- 
- 32 秦昭公…秦の昭襄王。在位，前 306-前 251。百里奚は秦の穆公の宰相であるため，時代が合わない。
- 33 八水…関中（戦国時代末期，函谷関以西の秦の故地）を流れる灞，滻，涇，渭，鄠，鎬，潦，滴の八筋の川。
- 34 上国…春秋時代，中原地域にある国々を指し，南方の呉や楚の国々に対応して優位であることを示した名称。
- 35 蒸民…民，民草。「烝民」に同じ（『孟子』などでは「蒸民」に作る）。「烝」は衆の意。『詩経』大雅・烝民「天生烝民，有物有則。」
- 36 八水通流～号大秦…ほぼ同じ登場詩が，元・鄭光祖「智勇定斉」第四折「[外扮秦国公子領祗候上] [秦公子云] 八水通流分上国，三川似錦樂烝民。春秋繼世尊嬴氏，赳赳威嚴号大秦。」に見える。
- 37 秦穆公与楚結為親邦…史書では，楚と同盟を結んだのは，秦の穆公ではなく，秦の昭襄王の時代である。楚の懷王二十四年（紀元前 305），楚は秦と和睦し，位に即いたばかりの秦の昭襄王は楚に莫大な贈り物を贈り，楚は秦から妻を迎えた。翌年，楚の懷王は秦に入り，黄棘で盟約を結んだ。『史記』楚世家。
- 38 包胥在馭亭中～將郵亭哭倒：秦へ援軍を請いに行った申包胥は，秦の朝廷に立って昼夜哭し，七日七晩その声は絶えなかった。それに感じて，馭館が倒れたという。『史記』伍子胥列伝。『呉越春秋』閭閻内伝。
- 39 百里奚…春秋時代の秦の宰相。



を尊び、<sup>いさましき</sup>赳赳たる雄威もて大秦と号す。

私は秦の昭公です。国を咸陽に建てました。昔年わが父秦の穆公が楚と婚姻を結び姻戚の国となりました。呉楚二国に一ふりの劍があり、戦いが引き起こされ、いま楚国の大夫申包胥が兵を借りに来て救援を求めてきましたが、私はかたく許しません。思わぬことに申包胥は駅館の中で、壁に寄りかかって哭し、七日七晩絶えることがなく、哭して駅館を倒してしまいました。私が思うにこの人こそまことの忠烈の士です。私はいま彼に兵を貸そうと思いますが、まだ百里奚と相談しておりません。これ、百里奚を呼べ。[兵士がいう] わかりました。百里奚はいずこに。

[百里奚上云]

先事興虞後佐齊，東奔西走受驅馳。只因秦国知賢士，五殺大夫百里奚。

老夫乃百里奚是也。有公子呼喚，須索走一遭去。可早来到也。小校報復去，道有百里奚来了也。[卒子云] 理会理（的）。喏。報的公子得知。有百里奚来了也。[秦昭公云] 着他過來。[卒子云] 理会的，過去。[做見科] [百里奚云] 公子喚小官，有何事也。[秦昭公云] 大夫，因為申包胥借兵一事，特請你来商議也。

[訳] [百里奚が登場するという]

先に<sup>ぐのくに</sup>興虞に<sup>つか</sup>事え後に齊を佐け，東奔西走して<sup>くろう</sup>驅馳を受く。只だ秦国の賢士，五殺大夫百里奚を知るがため。

わしは百里奚じゃ。公子さまがお呼びだから，一つ行かずばなるまい。もうはや着いた。報告せよ，百里奚が参りましたとな。[兵士がいう] かしこまりました。ははっ。公子さまにお知らせします。百里奚が参りました。[秦の昭公がいう] 彼を通せ。[兵士がいう] かしこまりました。通れ。[会うしぐさ] [百里奚がいう] 公子さまが私をお呼びとは，どんなご用でしょうか。[秦の昭公がいう] 大夫どの，申包胥が軍勢を借りに来た一件により，特にそなたを招いて相談したいのだ。

[百里奚云] 想伍子胥在於臨潼会<sup>40</sup>上，对着十七国諸侯，文過老夫百里奚，武勝秦姬輦。想着冤讐，未曾相報。今有申包胥来借兵。公子不肯与，他在於駅亭中，七昼夜哭声不絶，感動天地，哭倒了郵亭，乃忠烈之士也。可以借兵与他也。[秦昭公云] 既然如此。令人，

40 臨潼会…「臨潼關堡」ともいう。「前篇」注 46 に既出。

与我請将申包胥来者。[卒子云] 理会的。

[訳] [百里奚がいう] 思えばかの伍子胥が臨潼会で、十七国の諸侯に対し、文は私百里奚よりすぐれ、武は秦姫輦よりまさっていました。思えば恨みは、まだ報いておりません。いま申包胥が兵を借りに来ております。公子さまがお与えにならないので、彼は馭館の中で、七日七晩、泣き声が絶えず、天地を感動させ、泣いて馭館を倒しました。これぞ忠烈の士です。兵を彼に与えてよいでしょう。[秦の昭公がいう] そうのことか。これ、申包胥を呼んでまいれ。[兵士がいう] 分かりました。

[申包胥上云]

迢迢路遠借秦兵，惟恐家邦命已傾。痛哭憂愁七昼夜，英雄流淚倒郵亭。

小官申包胥是也。到此秦国借兵救楚。秦昭王不允。小官失却前言，恐楚国有失。小官痛哭了七昼夜，水漿不曾到口。把郵亭哭倒。今日昭公呼喚，須索走一遭去。可早来到也。令《人》報復去，道有申包胥在於門首。

[訳] [申包胥が登場していう]

<sup>はるばる</sup>迢迢と路遠くして秦兵を借りるも、<sup>さだめ</sup>惟だ恐るるは家邦の命の已に傾きしこと。痛哭し憂愁すること七昼夜、英雄 涙を流して郵亭を倒す。

私は申包胥です。ここ秦国に兵を借りて楚を救いにきましたが、秦の昭王が許しません。私は前言に違え、楚国が失われることを恐れました。七日七晩痛哭し、水も口にしないので、馭館が倒れました。いま秦の昭公さまがお呼びなので、一つ行かずばなるまい。もうはや着いた。おい、報告せよ、申包胥が門口にいるとな。

[卒子云] 理会的。喏，報的公子得知。有申包胥来了也。[秦昭公云] 着他過來。[卒子云] 理会的。過去。[做見科] [申包胥云] 公子呼喚小官，有何事也。[秦昭公云] 大夫，因你将郵亭哭倒，真乃忠烈之士。某今借与你十万雄兵，命秦姫輦為帥，前去救楚。你意下如何。[申包胥云] 多謝了公子。[秦昭公云] 令人，与我喚将秦姫輦来者。[卒子云] 理会的。秦姫輦安在。

[訳] [兵卒がいう] かしこまりました。ははっ、公子さまにお知らせします。申包胥がきております。[秦の昭公がいう] 彼を通せ。[兵卒がいう] かしこまりました。通れ。[会うしぐさ] [申包胥がいう] 公子さまがお呼びとは、何の御用でしょう。[秦の昭公がいう] 大夫どの、おぬしが馭館を泣いて倒したとは、まこと忠烈の士というもの。わしは

今おぬしに十万の精兵を与え、秦姫輦に命じて元帥とし、楚を救いに行かせよう。おぬしの考えはどうじゃ。[申包胥がいう] 公子さまありがとうございます。[秦の昭公がいう] おい、わしのために秦姫輦を呼んでまいれ。[兵卒がいう] かしこまりました。秦姫輦はいずこにある。

[秦姫輦上云]

幼習兵書曉六韜，開旗臨陣見功劳。為臣必要行忠孝，赤心輔助保皇朝。

某乃秦姫輦是也。我知天文，曉地理，觀氣象，弁風雲<sup>41</sup>，望塵知地数，嗅土識兵機<sup>42</sup>。坐籌帷幄之中，決勝千里之外<sup>43</sup>。官封大將軍之職。今有公子呼喚，不知有甚事。須索走一遭去。可早來到也。小校報復去，道有秦姫輦來了也。[卒子云] 理会的。喏，報的公子得知。有秦姫輦來了也。[秦昭公云] 着他過來。[卒子云] 理会的。過去。[做見科][秦姫輦云] 公子呼喚秦姫輦，有何事商議也。[申包胥云] 久聞元帥大名。文能伏衆，武能威敵，保秦邦雄壯，使小国不敢正目視之。今日得見尊顏，實乃小官万幸也。[秦姫輦云] 不敢，不敢。

[訳][秦姫輦が登場するという]

幼きより兵書を習い六韜を<sup>し</sup>曉り，旗を開き陣に臨み<sup>あら</sup>功劳を見ず。臣と為り必ず忠孝を行わんことを<sup>もと</sup>要め，赤心もて<sup>たす</sup>補助け皇朝を保つ。

我こそは秦姫輦です。私は天文を知り，地理に明るく，氣象を観察し，風雲をわきまえ，塵の舞い上がるのを望み見て地数を知り，土のにおいを嗅いで戦いの機会を認識します。陣幕の内に坐して策を巡らし，勝利を千里の外で決します。官は大將軍の職に封じられております。ただいま公子さまがお呼びですが，何の御用かわかりません。ひとつ行かざるまい。もうはや着いた。おい，報告しろ。秦姫輦が来たとな。[兵卒がいう] かしこまりました。ははっ，公子さまにお知らせします。秦姫輦が来ております。

41 知天文～弁風雲…定型表現。用例としては、元・鄭光祖「王粲登樓」第二折【倘秀才】前「[荆王云] 賢士，知天文，曉地理，觀氣色，弁風雲。何所不通，何所不曉。有大才受大任，固其宜也。」，元・李文蔚「破苻堅蔣神靈応」第一折末尾のせりふ「(苻堅云) 先生去了也。某欲待回晋，軍師堅意不肯。某手下有中大大夫陽耳公苻融，此人知天文，曉地理，觀氣色，弁風雲。某喚他来，与他商議，看他意下如何。」等がある。

42 望塵知地数，嗅土識兵機…これについては、『北齊書』斛律金伝に次のような記事がある。「斛律金字阿六敦，朔州勑勒部人也。…(中略)…金性敦直，善騎射行兵用匈奴法，望塵識馬歩多少，嗅地知軍度遠近。」

43 坐籌帷幄之中，決勝千里之外…『史記』留侯世家「高帝曰，運籌策帷帳中，決勝千里外，子房功也。」

[秦の昭公がいう] 彼を通せ。[兵卒がいう] かしこまりました。通れ。[会うしぐさ] [秦姫輦がいう] 公子さまがわしをお呼びだが、何の相談であろうか。[申包胥がいう] ご高名はかねてより承っております。文事においては衆人を心服させ、武事においては敵を威圧することができ、秦国の強さを保ち、小国に正視させません。今日のご尊顔を拝することができましたのは、誠にもってわたくしの幸せにございます。[秦姫輦がいう] 恐れ入ります。

[秦昭公云] 喚你来別無甚事。今有楚国申包胥問我借兵求救。你為大帥統十萬雄兵，与包胥救楚，小心在意者。[秦姫輦云] 公子，想楚国乃親戚之邦。某見不發兵，申包胥哭倒了郵亭。乃神明相助。某想伍員在臨潼会上，拳打蒯聵，脚踢卞莊，文過百里奚，為爭盟府劍，筵前戲鼎，欺吾太甚。某領十萬雄兵，一來救楚，二來就擒拿伍子胥，雪臨潼之恥也。[秦昭公云] 言者當也。你小心在意。百里奚，俺且回去來。

到来日雄赳赳揚威耀武，惡眼眼開弓登弩<sup>44</sup>。看姫輦統領雄兵，助大夫包胥救楚。[同下]  
[申包胥云] 多謝了公子。這一去，若退了子胥之兵，此恩異日必當重報也。

千里投人實是難，忠心捨死怎空還。郵亭七夜傾心哭，求得秦兵出武關。[下]  
[秦姫輦云] 申包胥去了也。自古有忠臣烈士，某觀包胥真乃為楚国大賢士也。

遠路迢迢離故郷，包胥忠烈世無双。若君不哭咸陽駢，怎得秦兵救楚邦。[下]  
[訳] [秦の昭公がいう] おぬしを呼んだのはほかでもない。いま楚国の申包胥が私に兵を借りて助けを求めに来ている。おまえは司令官となって十萬の精兵を率い、申包胥とともに楚を救いに行け。よくよく気をつけよ。[秦姫輦がいう] 公子さま、思うに楚国こそは親戚関係の国でございます。それがしが思いますに兵を出さなかったら、申包胥が哭して駢亭を壊しました。これぞ神明のご加護です。それがしが思うに伍員は臨潼会にて、蒯聵をげんこつで殴り、卞莊を足蹴にし、文では百里奚にまさります。盟府の劍を争い、宴席にて鼎で力比べをし、私を大いに辱めました。それがしが十萬の精兵を率いるのは、一つには楚を救い、二つには伍子胥を捉えて、臨潼の恥を雪がため。[秦の昭公がいう] そのとおりじゃ。用心せよ。百里奚、わしはひとまずもどるぞ。

来日に到れば雄赳赳にして威を揚げ武を耀かせ、惡眼眼にして弓を開き弩<sup>かま</sup>を登える。

44 開弓登弩…「開弓蹬弩」とも書く。弓を引き弩を構える。雜劇の用例としては、元・閔漢卿「鄧夫人苦痛哭存孝」第一折「李存信云」「自家李存信的便是。這個是康君立。俺兩個不會開弓蹬弩，亦不會廝殺相持。」がある。

み  
 看れば姫輦 雄兵を統領し、大夫包胥を助けて楚を救わん。[ともに退場]  
 [申包胥がいう] 公子さまに感謝いたします。今回のお出掛けで、もし伍子胥の軍を退  
 けましたら、この御恩は他日必ずや重くお返しするでしょう。  
 千里より人の投ずるは実に是れ難く、忠心もて生死を捨て<sup>いか</sup>怎でか空しく還らんや。  
 郵亭にて七夜心を傾けて哭し、求めて秦兵の武関より出づるを得ん。[退場]  
 [秦姫輦がいう] 申包胥は行ってしまった。むかしから忠臣烈士はいるが、それがしが見るに申包胥こそまことの楚国の大賢人じゃ。  
<sup>はるばる</sup>  
 遠路迢迢故郷を離れ、包胥の忠烈 世に双び無し。若し君 咸陽の駅にて哭さずんば、  
<sup>いか</sup>  
 怎でか秦兵の楚邦を救うを得んや。[退場]

[正末領卒子上云] 某乃楚昭公是也。当年為一口湛盧宝劍不与呉国，子胥統兵来伐楚，某同弟妻子避難。有申包胥借起秦兵，与子胥交戦。不期子胥不忘旧交之情，收兵罷戦而回。今楚国重安，乃包胥之功也。

【双調】【新水令】包胥真烈士胥知。听的道借軍来他可使領兵先退。借兵的重扶楚国安，投呉的斉和着凱歌回<sup>45</sup>。這兩個名姓天知。真乃是忠与孝両完備。

[訳] [正末が兵卒を率いて登場するという] 私は楚の昭公です。むかし一ふりの湛盧の宝劍を呉国に与えなかったために、伍子胥が兵を率いて楚を討伐にやってきて、私は弟、妻、子とともに避難する事態と相なった。申包胥が秦の軍勢を借りてきて、伍子胥と交戦した。あにはからんや伍子胥は旧交の情を忘れず、軍を撤収して戦いをやめて退却しました。いま楚国が再び平安となったのは、これぞ申包胥の功績です。

【双調】【新水令】申包胥はまことに烈士であり伍子胥は知者である。援軍を借りてきたと聴いて彼はすぐに兵を率いて先に退却した。軍勢を借りた者は再び楚を助け国を安定させ、呉国に身を投じた者はそろって凱歌して戻る。この二人の姓名は天も知る。まことこれぞ忠義と孝行の二つをすっかり備えている。

[正末云] 令人，与我請将太宰申包胥来者。[卒子云] 理会的。[申包胥上云]

45 斉和着凱歌回…「斉唱凱歌回」とも。「鞭敲金鉦響，斉唱凱歌回（鞭もてたたけば金鉦響き，みなでうたい凱歌してかえる）」のように使う例も多い。元・関漢卿「五侯宴」第三折「[李嗣源云] ……得勝収軍捲征旗，行軍起寨罷相持。衆將鞭敲金鉦響，班師斉唱凱歌回。」，同「单刀会」第三折「[関興云] ……恁時節喜孜孜鞭敲金鉦響，笑吟吟斉和凱歌回。」など。

幹事成功名最寛，驅馳<sup>46</sup>度苦勞関山。若是不哭郵亭倒，争得秦兵救楚安。

小官申包胥是也。借起秦兵，与子胥交戦。不期子胥不忘旧交之情，将城池地面復還与楚。他領兵回他本国去了。今楚国重安，公子来請，須索走一遭去。可早来到也。令人報復去，道有申包胥在於門首。[卒子云] 理会的。喏，報的公子得知。有申包胥在於門首。[正末云] 着他過來。[卒子云] 理会的。過去。[做見科] [申包胥云] 公子呼喚小官，那廂使用。[正末云] 此一場大功，多虧了賢宰也。[申包胥云] 非小官之能，皆公子之福也。[訳] [正末がいう] おい，申包胥を呼んでくるのだ。[兵卒がいう] かしこまりました。[申包胥が登場していう]

事を幹し功を成さば名は最も寛く，<sup>ちからをつく</sup>驅馳し<sup>すく</sup>苦を度わば<sup>も</sup>勞は関山のごとし。若し哭して郵亭を倒さずんば，<sup>いか</sup>争でか秦兵の楚を救い安んずるを得んや。

わたくしは申包胥です。秦の軍勢を借り，伍子胥と交戦いたします。あにはからんや伍子胥は昔の交友の情を忘れず，街をふたたび楚に返してくれ，軍勢を率いて彼の本国に帰って行きました。いま楚国は再び安定しました。公子さまがお呼びですので，ひとつ行かざるまい。もうはや着いた。おい報告せよ，申包胥が門前に来ておりますとな。[兵卒がいう] かしこまりました。ははっ，公子さまにお知らせします。申包胥が門口にきております。[正末がいう] 彼を通せ。[兵卒がいう] かしこまりました。通れ。[会うしぐさ] [申包胥がいう] 公子さまがわたくしをお呼びとは，何のご用でしょうか。[正末がいう] このたびの大きな功績，賢明な大臣のおかげであるぞ。[申包胥がいう] わたくしの力ではございません，みな公子さまの福運のおかげです。

【駐馬听】子胥無敵。雪恨懷冤惹是非。包胥有智。借秦兵復楚定華夷。[申包胥云] 子胥若不想旧交之情，憑着他那武藝，量小官到的那裡也。[唱] 雖然他過昭関八面虎狼威<sup>47</sup>。怎如你哭秦亭七日的英雄淚。我身居在宝殿裡。不見俺同胞共乳<sup>48</sup>的親兄弟。

[訳] 【駐馬听】伍子胥は敵する者無く，恨みを雪がんと恨みを抱き議論を巻き起こした。

46 驅馳…苦勞をすること。励むこと。

47 八面虎狼威…威風堂々としてあたりを払うさまをいう。無名氏「諸葛亮博望燒屯」第一折【混江龍】「聖明君穩坐九重龍鳳闕，顯出那大將軍八面虎狼威。」また，類似表現として，「八面威風」がある。

48 同胞共乳…「同胞」は同じ父母から生まれたきょうだい，「共乳」は同じ母の乳を吸ったきょうだいを指す。宋・葉廷珪『海録碎事』人事上「伝氣分形，同胞共乳。」白話の例としては，元・関漢卿「狀元堂陳母教子」第二折「我和你同胞共乳一爺娘，幼小攻書在学堂。受尽寒窓十載苦，龍門一跳見君王。」がある。



申包胥は智恵があり、秦の軍勢を借りて楚を復活して国家を安定させた。[申包胥がいう] 伍子胥がもし旧交の情を考慮してくれなければ、彼の武芸から考えて、わたくしごとくが何をしたというのでしょうか。[うたう] 彼が昭関を過ぎるとき才気あふれる虎狼の威力があったとはいえ、お前が秦の駅館で哭して七日間英雄の涙を流したことに及ぶだろうか。我が身は宮殿の中にあるが、わが同じ父母より生まれ乳を共にした実の弟に会えぬ。

[申包胥云] 公子、大事已定。二公子自然無事回還。小校、門首覲者。若有人来時、報復我知道。[卒子云] 理会的。[芈旋上云]

自從嫂<sup>あによめ</sup>侄<sup>おい</sup>亡於水、朝暮思量涙不乾。

某乃二公子芈旋是也。自江辺与哥哥相別之後、可早三年光景。听知的申包胥借起秦兵、重扶楚国。我認哥哥、走一遭去。可早来到也。令人報復去、道有芈旋在於門首。

[訳] [申包胥がいう] 公子さま、戦いはもう落ち着きました。二公子さまも当然無事にお戻りになるでしょう。おい、門口で見ておれ。もしも誰か来たときは、わしに報告するのだ。[兵卒がいう] かしこまりました。[芈旋が登場、いう]

嫂<sup>あによめ</sup>と侄<sup>おい</sup>の水に亡くなりて自從<sup>よ</sup>り、朝暮に思量して涙乾かず。

我こそは二公子芈旋でござる。川のほとりで兄さんと別れてのち、はや三年になります。聞くとくところでは、申包胥が秦の軍勢を借りてきて、再び楚国を支えたとのこと。私は兄さんに会いに一行行くとしましょう。もうはや着いた。おいお伝えせよ。門口に芈旋が来ておりますとな。

[卒子云] 理会的。喏、報的公子得知。有二公子在於門首。[正末云] 道有請。[卒子云] 理会的。有請。[做見悲科] [正末云] 哎約、兄弟也。你在那裡来。[芈旋云] 您兄弟自与哥哥相別之後、流落他郷。听知的哥哥重安楚国、你兄弟一径的尋将来也。

[訳] [兵卒がいう] かしこまりました。ははっ、公子さまにお知らせします。二公子さまが門口にお見えです。[正末がいう] お通しせよ。[兵卒がいう] かしこまりました。お通しせよ。[会って悲しむしぐさ] [正末がいう] ああ、弟よ。おまえはどこにいたのだ。[芈旋がいう] わたくしは兄さんとお別れしてから、他郷をさすらっておりました。兄さんが再び楚を安定させたとうかがい、私はまっすぐ尋ねて参ったのです。



【沈醉東風】自間別伯夷齊叔<sup>49</sup>。我當時淚眼愁眉<sup>50</sup>。〔芰旋云〕三年不見哥哥，請坐受您兄弟幾拜。〔唱〕既然為兄弟情，講甚賓朋礼。想当日在小舟中十步難移。〔芰旋云〕兄弟豈望今日与哥哥相見也。〔正末云〕令人，安排酒果来，与兄弟飲幾杯。〔芰旋打悲科，云〕哥哥也，幸得相見，是俺祖宗庇廕也。〔唱〕今日相逢有限期。我又恐怕是南柯夢裡<sup>51</sup>。

〔訳〕【沈醉東風】伯夷叔齊のごとき我が兄弟が別れてより，私はそのとき目に涙を流し眉に愁いを浮かべたのだ。〔芰旋がいう〕兄さんに三年お会いしませんでした，どうぞ腰掛けて私の拝礼をお受け下さい。〔うたう〕兄弟の情愛のためである以上，賓客朋友の礼などかまうだろうか。あのとき小舟の中では少しも身動きができなかった。〔芰旋がいう〕私はこんにち兄さんにお目にかかれるとは思っていませんでした。〔正末がいう〕だれか，酒と果物を用意せよ，弟と酒を飲もうぞ。〔芰旋が悲しむしぐさ，いう〕兄さん，幸いにもお会いできたのは，われらのご先祖様の庇護のおかげです。〔うたう〕こんにち巡り会っても限りがある。私はまた南柯の夢ではないかと気にかかる。

〔正末云〕令人将酒来。兄弟，満飲一杯。〔芰旋云〕您兄弟喫不下這酒去。〔正末云〕兄弟，你為什麼喫不下這酒也。〔芰旋云〕您兄弟則想着嫂嫂和侄兒。〔正末云〕兄弟，您嫂嫂，侄兒都有。〔芰旋云〕既然有嫂嫂，侄兒，何不請将出来相見咱。〔正末云〕令人，請将夫人，姪兒来者。〔卒子云〕理会的。夫人，小公子有請。

〔訳〕〔正末がいう〕おい，酒を持ってこい。弟よ，十分に飲んでくれ。〔芰旋がいう〕私はこの酒を飲み干すことができません。〔正末がいう〕弟よ，お前はなぜこの酒を飲めないのだ。〔芰旋がいう〕私は兄嫁さまと甥御を思っているのです。〔正末がいう〕弟よ，お前の兄嫁・甥はみんないるぞ。〔芰旋がいう〕兄嫁さまと甥御がいるからには，どうしてお招きして会わないことがありますでしょうか。〔正末がいう〕おい，奥と息子をこちらへ。〔兵卒がいう〕かしこまりました。奥方さま，若さまおいでください。

49 伯夷叔齊…ここでは句末の押韻のため，順序を入れ替え「齊叔」となっている。「伯夷叔齊」は、『史記』伯夷列伝「伯夷，叔齊，孤竹君之二子也。父欲立叔齊，及父卒，叔齊讓伯夷。伯夷曰，「父命也。」遂逃去。叔齊亦不肯立而逃之。国人立其中子。」にある。

50 涙眼愁眉…涙を含んだ眼に愁いの眉。悲しみ泣くさまをいう定型表現。雜劇の用例としては，元・孟漢卿「張孔目智勘魔合羅」第三折【逍遙樂】「則見他愁眉淚眼，帶鎖披枷，莫不是競土爭桑。」がある。

51 南柯夢…唐の李公佐「南柯太守伝」による。淳于棼は酒に酔って槐の木の下に伏せったところ，槐安国に到り，国王の次女と結婚して，位人臣を極め榮華を誇った。ふと目覚めるとそれは一場の夢であり，槐の木を調べると，槐安国とは木の下に蟻の巣であったという物語。

〔二旦領俵児上，云〕妾身乃楚昭公継室夫人是也。公子呼喚，我見他去。可早来到也。不必報復，我自過去。〔做見科，云〕公子，俺母子二人来了也。〔正末云〕兄弟，兀的不是您嫂嫂侄兒。〔玳旋打認科，云〕哥哥，這個那裡是我那嫂嫂和侄兒也。〔正末云〕兄弟也，可知不是你那嫂嫂和侄兒也。

〔訳〕〔二旦が子役を連れて登場，いう〕わたくしは楚の昭公の継室です。公子さまがお呼びですので，私は会いにまいります。もうはや着いた。取り次ぎは不要じゃ，私が自分で行きます。〔会うしぐさ，いう〕公子さま，われら母子二人が参りました。〔正末がいう〕弟よ，なんとまあお前の兄嫁甥御ではないか。〔玳旋がみとめるしぐさ，いう〕兄さん，これがどうして私のあの兄嫁と甥御なのですか。〔正末がいう〕弟よ，当然お前のあの兄嫁と甥御でないか。

【落梅風】他身跳在波心内。名標在書伝裏。一个忠則尽命一个孝当竭力。我今日立家邦還成子共妻。〔正末云〕兄弟，当初我棄了嫂嫂，侄兒，存得你。哥哥在今日還有嫂嫂，侄兒，若無你呵。〔唱〕我那裡再尋个同胞共乳的兄弟。

〔正末云〕兄弟，俺慢慢的飲酒。令人，門首覷者。看有什麼人来，報復我知道。〔卒子云〕理会的。

〔訳〕【落梅風】彼らの身は波の中心に飛び込み，名は書物の中で顕彰される。一人は忠義の為に命を賭け一人は孝行のために全力を尽くした。私はこんにち国を立てまた子と妻を成した。〔正末がいう〕弟よ，あのとき私は兄嫁と甥を棄てて，お前を生かした。私は今また兄嫁と甥を持ったが，もしもお前がいなければ，〔うたう〕私はどうしてまた同腹で乳を共にした弟を訪ねることが出来ようか。

〔正末がいう〕弟よ，我らはゆるりと酒を飲もう。おい，門口で見ておれ。誰か来るのを見たら，わしに知らせよ。〔兵士がいう〕かしこまりました。

〔旦兒領俵児上云〕

只因疎者下水去，豈望廻生到世間。

妾身乃楚昭公の夫人是也。自從同孩兒下水之後，謝天地可憐，將妾身救於岸上。叫化三年光景，听知的俺昭公復立起楚国也。我引着孩兒認他去。可早来到也。報復去，道有親眷在於門首。〔卒子云〕理会的。喏，報の公子得知。有親眷在於門首。〔正末云〕有親眷，不知是什麼親眷。我自看去咱。

〔訳〕

〔女役が子役を引き連れて登場していう〕

只だ疎者の水に下り去るに因り，豈に廻生して世間に到るを望まんや。

私こそは楚昭公の奥方です。子どもとともに水に飛び下りたあと，天地の神の憐れみのおかげで，私を岸の上へお救いくださいました。物乞いをして三年，わが昭公さまがふたたび楚の国を立ち上げたと聞きました。私は子どもを連れて彼に認めてもらいます。もうはや着きました。報告せよ。身内の者が門口に来ています。〔兵士がいう〕かしこまりました。ははっ，公子さまにお知らせします。お身内が門口に来ております。〔正末がいう〕身内はいるが，どんな身内がどこにいるのかしら。私が自分で会いに行こう。

【甜水令】我恰纔与兄弟団円，開懷笑飲，同歡重会。我這裡那步出宮闈。遠觀儀容，近觀貴体。端詳仔細。〔旦兒云〕公子万福。〔唱〕原来是俺性真良清正賢妻。

〔訳〕【甜水令】私はたった今弟と団円し，胸襟を開いて笑って酒を飲み，再会をともに歡びあう。私が宮殿を歩いて出てみると，遠くに姿を見，近くにとうとい体を見る。よくよく見てみよう。〔女役がいう〕公子さまこんにちは。〔うたう〕なんとわが節操の堅く清廉潔白な賢妻ではないか。

〔正末云〕您娘兒每在於何処来。〔旦兒云〕妾身自与公子離別之後，投於江中，尽節而亡。不想水中金光燦爛，爽氣逼人，一部神聖將妾身救於岸上。則見漫漫的蘆葦，正行之間，撞見孩兒。俺子母每於路上，抄化為生。公子今日復立家邦，全不想俺大江中受的苦楚。説兀的做甚。

昔年被難在波心<sup>52</sup>，妻子身亡已尽忠。今日安邦重立楚，早亡了子母投江救主恩。

〔訳〕〔正末がいう〕お前たちはどこにいたのか。〔女役がいう〕私は公子さまとお別れしたあと，川の中に身を投じ，節操を守って死にました。思いがけなく水中に金色の光がきらめき，さわやかな気が迫り，神さまが私を岸の上に助けてくれました。みれば果てしない葦原，行こうとすると，子に出会いました。我ら母子は道中，物乞いを生業としました。公子さまがこんにち再び国を立て直しましたが，我らが大江の中で受けた苦しみを思いもかけていないでしょう。話したところでどうなるのでしょうか。

---

52 波心…水の中ほど。唐・白居易「春題湖上」詩に，「松排山面千重翠，月点波心一顆珠。」とある。

昔年難<sup>かわのなかほど</sup>を波心<sup>なみこころ</sup>に在りて被り、妻子は身を亡ぼし已に忠を尽くす。今日邦を安んじ<sup>こんにち</sup>  
重<sup>ふたた</sup>び楚<sup>つと</sup>を立つるは、早に亡くなりし子母の江に投じ主を救いし恩のあるがため。

【折桂令】我則道您趁横波一去無消息。〔正末云〕兄弟也。〔唱〕這正是天上麒麟<sup>53</sup>，休猜做牆上泥皮<sup>54</sup>。暗想当年船小江深，水接雲齊。若不是這賢達婦三從四德<sup>55</sup>。若不是這孝順子百從千隨。我則道夫婦別離。天數輪迴。俺今日再得團圓，端的是福祿相宜。

〔訳〕【折桂令】私はただお前が横波に従ってひとたび去って行方知れずと思っていた。〔正末がいう〕弟よ。〔うたう〕こちらはまさしく天上の麒麟の子、壁の泥のように取るに足らぬ妻とってくれるな。ひそかに思えばあのとき船は小さく川は深く、水は雲に接するほど。もしこの賢明達識の妻が三從四徳を備えていなかったら、もしこの孝行従順な子が百從千隨でなかったら自分たちは死んでいた。私はただ夫婦の別離は、天の命数の巡り合わせだと思っていたが、われわれがこんにち再び相まみえることができたのは、確かに福祿ともにそろったということ。

〔芟旋云〕哥哥，今日一家夫妻父子兄弟團圓，理当慶賀也。令人，門首覷者。看有什麼人來，報復我知道。〔秦昭公上云〕

只今臨潼關寶會，秦楚結親到至今。

某乃秦昭公是也。奉大周主人之命，前往楚国，加官賜賞，走一遭去。可早來到也。令人報復去，道有秦昭公來了也。〔卒子云〕理會的。喏，報的公子得知。有秦昭公來了也。〔正末云〕秦昭公來了。某親迎接他去。〔做見科〕〔秦昭公云〕楚公子，某非私來，奉聖人的命，因您国有賢良忠孝之臣，某至此也。〔正末云〕昭公，於路索是勞神也。

〔訳〕兄さん，今日は一家夫婦父子兄弟が再会し，お祝いするべきです。おい，門口を

53 天上麒麟…『陳書』徐陵伝に、「徐陵…（中略）…母臧氏，嘗夢五色雲化而為鳳，集左肩上，已而誕陵焉。時宝誌上人者，世称其有道，陵年数歳，家人携以候之。宝誌手摩其頂，曰「天上石麒麟也。」とあり，もともとは才能のある人を指した。唐・杜甫「徐卿二子歌」詩に「君不見徐卿二子生絶奇，感応吉夢相追隨。孔子釈氏親抱送，並是天上麒麟兒。」とあり，この詩により聡明な文才のある子どもを指すようになった。

54 牆上泥皮…もともとは賤しい者という意で，無名氏「神奴兒」第一折【柳葉兒】「媳婦兒是牆上泥皮。」がある。ここでは，妾のたとえとして使われている。無名氏「劉弘嫁婢」第二折【三煞】「你可休觀的微賤看的容易，莫把這堂中珍寶，你可休看承做牆上泥皮。」

55 三從四徳…「三從」は、『儀礼』喪服「婦人有三從之義，無專用之道，故未嫁從父，既嫁從夫，夫死從子。」に基づく。「四徳」は、『周礼』天官・九嬪「掌婦学之法，以教九御婦徳，婦言，婦容，婦功。」に基づく。

見ておれ。誰かやって来たら，報告して私に知らせるのだ。[秦の昭公が登場していう]

只今臨潼關宝の会にて，秦楚は親を結びて至今に到る。

私は秦の昭公です。大周の主人の命を奉じて，楚国に赴き，官を加え恩賞を賜りに，一つ参ります。もうはや着いた。おい報告せよ，秦の昭公が来たと伝えよ。[兵卒がいう] かしこまりました。ははっ，公子さまにお知らせします，秦の昭公が参りました。[正末がいう] 秦の昭公がやって来た。私みずから彼を出迎えよう。[会うしぐさ] [秦の昭公がいう] 楚の公子さま，私は私的に参ったのではなく，天子の命を奉じ，あなたの国に賢明ですぐれ忠義と孝行を持ち合わせた臣下がいることにより，私はここにまかりこしました。[正末がいう] 昭公さま，道中大変お疲れさまでした。

【沽美酒】把周朝天命持。知楚地有英奇。翻滾滾長江風浪疾。則俺這着親的。在船裏疎者的淚悲啼。[芟旋云] 若不是嫂嫂，侄兒下水，俺豈有今日也。

〔訳〕【沽美酒】周朝の天命をば持参するは，楚の地にすぐれた人ありと知られたるがゆえ。滔々と流れる長江は風浪はやし。ただわれら近しい者のために，船の中で疎遠な者が悲しんで泣く。[芟旋がいう] もし兄嫁さま，甥御が水に飛び込まなかったら，われらには今日のこの日は無かったでしょう。

【太平令】虧了俺渾家賢慧。今日俺弟兄們無事。相隨妻還娶重生子。息子還生聰明伶俐。謝天朝聖勅，頂礼<sup>56</sup>。拝啓。俺三叩首尊周明帝。

〔訳〕【太平令】わが妻が賢女であったおかげで，こんにちわれら兄弟は無事であった。妻を従えてまた娶り重ねて子をうみ，息子はまた生まれながらに聡明。朝廷の勅命に感謝し，ぬかずいて，うやうやしくうけよ。われら三たびぬかずいて周の天子に拝礼せよ。

〔秦昭公云〕楚公子，您一家兒望闕跪者。聽聖人的命。

則為那湛盧劍飛入楚地，伍子胥雪恨懷仇。

楚昭公合家避難，魚船小風浪難収。妻共子疎者下水，兄与弟至親在舟。

申包胥入秦求救，七晝夜兩淚澆流。秦亭駅一朝哭倒，統雄兵為此因由。

加你為上卿之職，郢川定百姓歌謳。今日箇加官賜賞，一齊的拝謝尊周。

56 頂礼…土下座すること。金・董解元『西廂記諸宮調』卷四「清河君瑞（張君瑞），不勝其喜，宝獸添香，稽首頂礼。」

〔訳〕〔秦の昭公がいう〕楚の公子よ、そなたら一同で宮殿に向かいひざまずけ。天子さまの命令を聞け。

ただ那<sup>か</sup>の湛盧の剣の楚地に飛び入りしがため、伍子胥は恨みを雪がんと仇を懷う。

楚の昭公は家を合わせて難を避け、魚船は小さく風浪収まり難し。妻と子は疎者にて水に下り、兄と弟は至親にして舟に在り。申包胥は秦に入りて救いを求め、七昼夜兩すじの涙澆ぎ流る。秦の亭駅は一朝にして哭し倒れ、雄兵を統べるは此の因由が為なり。你<sup>なんじ</sup>に加えて上卿の職と為し、郢川定まり百姓歌謳す。今日<sup>こんにち</sup>簡官を加え賞を賜い、一斉に拝謝して周を尊ぶ。

題目 伍子胥懷冤雪恨

正名 楚昭公疎者下船

#### 解題

元代文学を代表する文学ジャンルは「元曲」と言われる。「元曲」とは、散曲と雜劇の総称する韻文学である。元曲については本訳注稿前篇の注に一部記したが、ここで改めて述べておきたい。「元曲」は「曲」とあるごとく、音楽に付随している。先にメロディがあり、メロディごとに、句数や句ごとに字数、平仄があらかじめ決められており、その規則に合わせて文字を当てはめていく。さらにメロディは、「宮調」（西洋音楽の調性に類するもの）と呼ばれるグループに分類されている。本劇第三折の冒頭の曲を例にすれば、【中呂】というのは【中呂宮】というグループの【粉蝶兒】という曲である。【粉蝶兒】は全8句、8句それぞれの字数は、「4。7。7。3・3・4。4。7。」である（鄭騫『北曲新譜』に拠る。数字の後ろの「。」は句末押韻、「・」は非押韻字を示す）。宮調ごとにメロディの配列順が決まっており、その複数の曲を連ねたものを「套数」といい、1曲のみのものを「小令」（小唄・端唄の類）と呼ぶ。

雜劇は、この曲を用いた演劇で、原則全四幕、すなわち「套数」を四つ連ねて構成され、一つの套数からなる幕を「折」という。必要に応じて、「楔子」と呼ばれる短い幕が付け加えられることもある。雜劇は曲を用いている以上、歌劇であるが、歌唱するのは「一人独唱」、主役の一人だけで、男性役が主役なら「正末」、女性役が主役なら「正旦」と呼ぶ。日本の歌舞伎などと同じく役柄があり、雜劇の場合、男性役が「末」、女



性役が「旦」、敵役が「浄」、皇帝役が「駕」などがある。

「楚昭公疎者下船」雑劇のテキストについて、説明しておきたい。今回訳注を施した脈望館抄本は、明の宮廷で上演するにあたり、検閲のために作成された台本、つまり内府本にもとづくテキストである。脈望館とは、明代中期の人趙琦美（1563～1624）の書齋名で、彼が万暦 40～45（1612～17）年の間に抄写したとされている。内府本は宮中での上演に供するために、例えば、本作のように「楚昭王」を「楚昭公」に書き換えたり、不適切な曲を削除したりするなどの手を加えている。また、末尾には穿關といって、衣裳の詳細を登場の途次ごとに記したものを伴っている。脈望館抄本は、おそらく趙琦美が写字生を雇って抄写させたものと考えられるが、趙琦美自身が校正をした書き入れが散見される。本訳注稿では、本文が明らかに誤っている場合は書き入れにしたがったが、それ以外の別本に基づくと思われる書き入れについては反映しなかった。脈望館抄本の最後には、趙琦美が校正した日付が記されており、本作では「内本録校時／万暦四十四年丙辰二月廿八日清常趙琦美識」とある。

異本には二種類のテキストがある。一つは、いわゆる「元刊雑劇三十種」に含まれる元刊本である。元刊本の特徴としては、序文や刊記等がないため、刊行に関する情報がほとんど得られないこと、また、本文はほぼ曲辞のみで、せりふ・ト書きの類は非常に少ないために、内容を理解することに困難を来す場合があることなどを挙げることができる。そのような「不備」があるものの、中国演劇史における現存する最も古い完全な脚本として、資料的価値が非常に高い。

もう一つは、『元曲選』に収録されるテキストである。『元曲選』（『元人百種曲』ともいう）は、臧懋循（1550-1620）が雑劇を百種集め、万暦 43・44 年（1615・1616）の二回に分けて刊行した戯曲集である。臧懋循は収集した雑劇に対して、彼独自の判断で徹底的に修正の手を入れているため、本来の姿とは異なる部分がある点は注意を要する。ただ、本集にのみ伝わる作品も多く、雑劇を研究する上で重要な資料の一つとなっている。

以上、三種のテキストに見えるそれぞれの違い、特に結末における相違について、以下に簡単に示しておく。元刊本では、結末で昭王（元刊本では「王」となっている）は継室とその間に生まれた子を伴って登場し、亡くなった正妻と子のために碑を建てて弔って終わる。脈望館抄本・元曲選本では、正妻とその子は龍神に助けられ、物乞いを 3 年（元曲選本は半年）続けて昭公と再会し、継室とその子ともども再会を喜び合っ



終わる。なぜこのような違いが生じたのかについては推測するしかないが、「楚昭公疎者下船」劇以外でも、元刊本はしばしば主人公が非業の最期を遂げる悲劇的な結末で終わるものが多い。それは、祭祀演劇、また鎮魂演劇の要素が強いためであると説明されることもある。一方、明代のテキストは、脈望館抄本がもともと宮廷内の上演に供したものであるように、皇族の御前で演じるにふさわしい改編が施され、『元曲選』所収のテキストは、脈望館抄本の不合理な点を改めたことがわかる。

本劇に見える親しくない者を見捨てるというモチーフについて、中務哲郎氏がヘロドトス『歴史』に見える話柄を紹介している<sup>57</sup>。ここでは、ダレイオスに捕らえられたインタプレネスの妻が、夫や子供ではなく兄弟の命を助けてほしいと懇願している。「楚昭公疎者下船」雑劇と類似する話として指摘しておく。

※前回の前篇（「脈望館抄本「楚昭公疎者下船」雑劇訳注稿（前篇）」）について、以下の補注をしておく。

92 ページ 3 行目本文「古云『両国相持，不斬来使。』」：

交戦中は使者を斬らないというのは、『春秋左氏伝』襄公十一年に「書曰『行人』，言使人也。」とある文に付された杜預の注に、「古者兵交，使在其間，所以通命示整。或執殺之，皆以為譏也。」とあるのが参考になる。

---

57 中務哲郎『物語の海 ギリシア奇譚集』岩波書店、1991 年。14～15 頁「妻の選択」

## 脉望馆抄本《楚昭公疎者下船》杂剧译注稿 后篇

土屋 育子・高崎 骏士・室 贵明

《楚昭公疎者下船》是脉望馆抄校古今杂剧之一，本稿以这脉望馆抄本为底本翻译成日语并作注释。

脉望馆抄校古今杂剧是赵琦美（1563-1624）的故物，其书收入了以下数种不同本子，有赵琦美录内府本，赵琦美录于小谷本，不知来历抄本。《楚昭公疎者下船》原本是内府本，有琦美题识（内本录校时万历四十四年丙辰二月廿八日清常道人赵琦美识）而剧附闯关。

本剧共4折，正末扮楚昭公。事见《左传》和《史记》，根据史书与传说改编，剧写伍子胥伐楚，昭公出逃事。